

# 家庭基礎

家庭科の学習は、家庭生活で必要な知識や技術を身につけるだけでなく、社会の課題と暮らしを結び付けて考え、新たな価値観や行動を生み出すことを目指している。

環境や社会、経済について総合的に考え、持続可能な社会への課題と向き合おう。そして、家庭科で学んだ知識や技術を生かして、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手になろう。

(教科書見返し①より)

家族・家庭、生活設計、経済生活、衣生活、食生活、住生活、保育、共生、高齢者と様々な分野を学びます。どのような内容が含まれるのか、導入授業で実施する予定だった「かるた」を紹介します。上の読み札と下のイラストを結びつけてみよう！

## 家族、家庭分野

自分らしい人生をつくる(教科書 P14～)

自分らしい生き方とは何だろう。顔立ちが一人一人異なるように、人生も一人一人異なる。

よりよく生きるために、今の自分を見つめ、青年期の自立について考えよう。また、自立した男女が協力して、豊かな家庭生活や地域社会を創造していくために、家族と社会とのかかわりについて学んでいこう。

誰 決めた

男は仕事

女は家庭

金銭面

だけと思うな

自立の道

青年期

アイデンティティを

模索する

ワイシャツに

アイロンかけたよ♡

お金くれ

仕事も遊びも

大事だな

ワーク・ライフ・

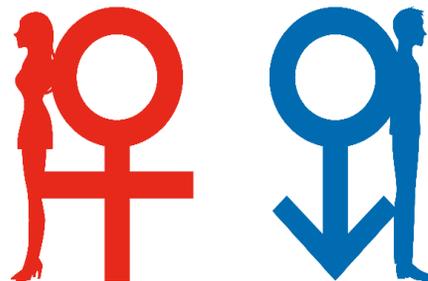
バランス



わ



た



し



せ



き



し

家族・家庭  
・生涯発達の視点(ライフステージ)

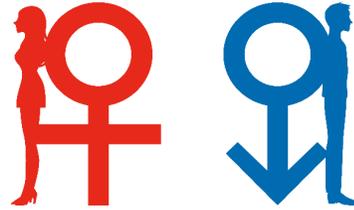


ワーク・ライフ・バランスとは  
「仕事と生活の調和」を意味する。



男女が共に働きながら子どもを  
生み育て、地域の人々とも交流しながら  
充実した生活を送るという  
ワーク・ライフ・バランスの実現には  
個人、国、地方自治体、企業における  
それぞれの積極的な取り組みが  
必要である。

た



家族・家庭  
・これからの社会生活と社会

「性別役割分業意識」とは

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」  
という考え方。

男女がともに職業と家庭の分野で責任を  
担うことが重要。

せ

家族・家庭  
・生涯発達の視点



「アイデンティティ」

自分らしさとは

いったい自分は何者か

自分自身の自分に対する考え方  
「私は 私を こういう人間だと思っている」

これらの問いに答えられますか？

青年期は自己を見つめ、  
自分らしさを模索し確立していく時期です。

わ

家族・家庭  
・これからの家庭生活と社会



職業労働と家事労働  
有償労働と無償労働

家事労働は自分や家族のために行われる  
無償労働である。

〈特徴〉

・種類が多い

(衣・食・住、ごみ、郵便、配達物、各種手続き  
家族、ペットの世話 おつきあい 冠婚葬祭  
家計の管理 など)

・繰り返し行われる(反復性)

・家族の状況に合わせて行われる(他律性)

・工夫しだい(創造性)



き

家族・家庭  
・青年期の課題



「自立」には

・生活的自立

・経済的自立

・性的自立

・社会的自立

・精神的自立

など様々な側面があり、それらを満たしたい  
という意欲が生きる原動力にもなっている。

